

スクールワイドPBS

学校全体で取り組むポジティブな行動支援
SWPBS (School-wide Positive Behavior Support)

スクールワイドPBSとは

スクールワイドPBSは、児童生徒が示す問題行動に対し、それを罰するのではなく、「身に付けさせたい行動を育てる」という発想のもと、学校の実情や課題等を踏まえて場面ごとに行動目標を設定し、学校全体で全ての児童生徒を対象に取り組む組織的アプローチです。

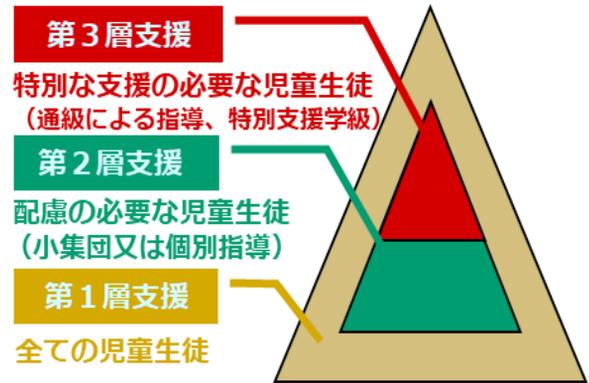
スクールワイドPBSの効果

発達障がいのある児童生徒は、禁止形での声掛けにより感情的になったり、パニックになったりすることがあります。禁止ではなく肯定的な声掛けにより、発達障がいのある児童生徒にとっても受け入れやすい指導となり、自発的な行動につながりやすくなります。その結果、暴言暴力や登校渋り等の二次的な問題が生じにくくなり、個別の指導や特別な配慮が本当に必要な児童生徒を絞り込むことが可能となることから、よりの確な指導や支援を行うことができます。

行動目標の設定例

(めざす児童生徒像を場面ごとに具体化)

	主体的な子ども	思いやりのある子ども	たくましい子ども
授業中			
清掃の時間	それぞれの時間、場面ごとに行動目標を設定する。		
集会の時間			
教室移動中			



「スクールワイドPBS」は、科学的根拠に基づいた行動支援の方略としてアメリカで開発されました。全米の学校で取り組まれるだけでなく、カナダやニュージーランド、オーストラリアなどにも広がり、成果が報告されています。

スクールワイドPBSを先行的に導入した学校で見られた成果

- ・ 長期休業中の生徒の問題行動が大幅に減少した
- ・ 低下傾向にあった学力が向上に転じた
- ・ 生徒が授業に主体的に取り組む場面が増えた
- ・ 教員の意識が変わった

